

平成25年度 先導的大学改革推進委託事業

「今後の教職大学院におけるカリキュラムイメージに関する調査研究」

授業指導コースカリキュラムWG 議事メモ（案）

日 時：平成25年11月23日（土）15時30分～16時50分

場 所：神戸ハーバーランドキャンパス

出 席：黒岩座長，佐藤副座長，堀委員，松岡委員，井上委員，安藤委員

陪 席：國崎特命助教，内藤主査

- ・会議の開催にあたり，各委員から自己紹介が行われた。

（審議事項）

（1）コース名称について

黒岩座長から，以下のとおり説明が行われた。

- ・コース名称について，本WGの名称は「授業指導コースカリキュラムWG」となっているが，資料4-1のカリキュラム案ではコース名称が「学習指導コース」となっている。
- ・文科省から委託の話が来た際にはコース名が「授業指導コース」であったが，協力者会議報告書の20頁で，「学習指導コース」に変更されたため，WGとカリキュラム案で名称に差が出ている。

引き続き審議が行われ，「授業指導」は教員（指導主事等）が教員に指導するというイメージになるが，「学習指導」は教員が子どもに学習指導する，そのための力をつけるという意味になるので，コース名称は「学習指導コース」に統一することとなった。

（2）カリキュラム案について

座長から，資料4-1に基づき，以下のとおりカリキュラム案について説明が行われた。

- ・兵庫教育大学では，当初，授業実践リーダーコースとして開設したが，ストレート学生が多く，ミドルリーダー養成より新人教員養成の要素が強くなり，コース名称が実態と合わなくなってきた。このため，平成25年度からコース名称を「授業実践開発コース」に変更したこと。
- ・平成19年度の教職大学院試行期間を含めて7年間の実績を踏まえ，平成26年度入学生からカリキュラムを見直しを行うこととしたこと。この検討結果が資料4-1であること。
- ・専門科目は3分野に分かれており，ここでの学修の成果を束ねるのが「教育実践改善研究」であること。
- ・実習は学修の成果を現場で実現するためのものであり，基礎→開発→改善の順番で行うこととしていること。
- ・ストレート学生は授業実践の経験が絶対的に不足しているため，その部分に厚みを持たせるために，「授業実践における専門的技能」と「カリキュラムデザインの基礎」という2科目を新設することとしたこと。
- ・「学校カリキュラムのデザインと推進体制」と「メンタリングの理論と実践」については，ストレート院生向きではないとの理由から，現職院生専用の科目としたこと。
- ・科目名称は旧カリキュラムでは，担当者も覚えることが難しい長い名称が多かったので，短くても科目の内容がわかる名称としたこと。

引き続きカリキュラムに対する意見交換が行われた。

(出された主な意見)

①カリキュラム案に関する意見

- ・ 共通5領域とコースのカリキュラムとの関連はどうなっているのか？
→これから学内検討WGにおいて具体的に検討していく予定である。
- ・ 本カリキュラム案は、評価の部分が弱いと思う。中高は評価をもっと取り入れるよう文科省から指導が行われている。評価の特性まで下りて評価を基準レベルで示し、個々に返って行くようにしなければならない。
- ・ カリキュラム案のプランはいいと思うが、「授業実践における専門的スキル」、「教師の専門的思考と知識基盤」や「メンタリングの理論と実践」は、誰が担当するかによって15回のカリキュラムイメージが大きく変わってしまうと思う。
- ・ 本カリキュラム案は、現職とストレートのカリキュラムを分ける案となっているが、現職・ストレートを分けずに授業を行うカリキュラム案の方が良いのではないかと。小規模な教職大学院では、このカリキュラム案は無理だと言われてしまう。
- ・ 実習は、現在、基礎→開発→改善ではなく、基礎→改善→開発の順番ではないのか。
- ・ マネジメントには、スクールマネジメント・ティーチングマネジメント・カリキュラムマネジメントの3マネジメントがあるが、本カリキュラム案ではスクールマネジメントの部分が弱いのではないかと。
- ・ ストレートのカリキュラム案では、課題解決研究以外の科目はすべて選択必修となっているが、「授業実践における専門的スキル」、「学習指導と授業デザイン」は必修、「カリキュラムデザインの基礎」、「学習環境とICT活用」は共通5領域でもやっているので選択でも良いのではないかと。
- ・ 「学習環境とICT活用」では、教科を特定することなく15回の授業を構成することは困難である。前提として教科があり、その中でどのように活用するかが必要だ。
- ・ 単位数は50単位になっている(設置基準上は45単位)。本カリキュラム案では、単位数を増やす方向で考えた方がよいのか。
- ・ 学校現場に実習に行きながら学ぶ教職大学院ではこのカリキュラムは難しいのではないかと。
→モデルカリキュラムはあくまでモデルなので、各大学の実態に合わせてアレンジして利用してもらうことになると思う。

②カリキュラム作成に対する一般的な意見

- ・ 現職教員は授業の分析、考察、評価の力がついていないと感じる。この部分を教職大学院で学んでもらうカリキュラムとしてはどうか。
- ・ 教科教育の系統性、横断性をどのように保証するかが問題である。この問題を解決できるカリキュラムができれば教職大学院の特色が出せる。
- ・ 現場で役に立つ、現場で求められているカリキュラム内容でなくてはならない。
- ・ スタッフのリソースが限られている教職大学院では、授業科目の一部分を現職・ストレートで分ける等、工夫しないと開設できない。
- ・ 実習については学生に個別対応することができるので、ストレートと現職の差を実習で埋めることとして、授業科目は原則として現職・ストレートと一緒に受講するようにした方がよいのではないかと。

- ・現場では、校種、教科、経験年数の枠を超えて学び合うことが求められている。カリキュラムも現職・ストレートと一緒に学ぶことが必要ではないか。
- ・ストレートの学生の中でも教員養成系大学出身者もいれば、一般の学部を出た学生もあり、教育の力量に大きな差がある。
- ・自分の持っている課題を自分で改善する授業科目があっても良いのではないか。
- ・教育基本計画（第2期）のキーワードである、自立・協働・創造の語彙を入れてはどうか。また、それぞれの科目に評価・改善という言葉を入れる必要があるのではないか。
- ・報告書の冒頭にあった課題探求型や地域連携というキーワードを入れてもよいと思う。
- ・ゼミ指導は単位化した方がよいと思う。
- ・教師塾との差別化を図る必要がある。自民党の現場主義（インターンシップ制度の導入等）の方がよいという意見に対抗できるカリキュラムでなければならない。
- ・教職大学院が養成すべき人材像、出口の到達目標を明確にする必要がある。具体的・汎用性のある人材像が必要。
- ・教科に偏らないようにしながら、教科内容をカリキュラムに入れていく必要がある。
- ・修士課程で行っていた教科教育に関する部分を、今後は教職大学院に移していくことになる。指導面で問題が出てくるのではないか。
- ・有識者会議でも言われていたが、今後、10年、20年後を見据えた教職大学院のカリキュラム案を作成していく必要がある。教員養成系の修士課程が廃止され、教職大学院に一本化されると、ストレート院生もこれまで以上に入ってくることも考えられる。今までのように受講生も少人数授業だけでなく、大人数の授業になることも考えられるし、学生の教育に関わる教員が多くなっていくことも想定して考えなくてはいけない。

③協力者会議報告書に関する意見

- ・報告書の内容は初等教育教員養成に重点を置いた内容となっている。教科の専門性を深めたい中等教育教員は、専門の研究科に行けばいいという風に読める。
- ・報告書には、教職大学院は教科教育によらないものとするという方針が出されているが、方針自体に無理があるのではないか。
- ・現職教員のニーズと報告書記載の方針にずれがあるので、報告書に記載されているような教職大学院カリキュラムとした場合、学生が来るのか不安がある。

④現場のニーズに関する意見

- ・現職教員のニーズとして、まず自分の教科教育の力を高めたいという要望がある。
- ・最近中学校の教科内容を小学校で扱うことも増えてきており、小学校でも得意教科を持っていることが重要になってきている。
- ・学生には教科のコースには所属しないが、教科については学びたいというニーズがある。
- ・中学校に実習のフォローアップに行くと、学校長等から教科の力をもっとつけてほしいという意見をもらうことが多い。

本日出された意見を参考にしながら、今後、学内検討チームでカリキュラムを見直して行くこととなった。

以 上

学校経営コースカリキュラムイメージ検討ワーキンググループ 議事要旨（案）

日 時：平成25年11月23日（土） 15：30～16：30

場 所：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス 講義室1

出席者：浅野副座長，榎谷委員，西島委員，名取委員

欠席者：竺沙座長，本図委員，米田委員，大竹委員

陪 席：中西企画課主査，田中特命助教

審議に先立ち，浅野副座長から，資料1-2により，欠席者も含めて委員の紹介を行った。教職大学院関係者については，大学院の規模の大小など，実情の違いも検討に反映させることを前提に選出し，またデマンドサイドである教育委員会関係者から選出したこと，更に経営学の専門家に加わっていただいていることについて説明が行われた。

（審議事項）

1. ワーキンググループ全体の進め方について

兵庫教育大学の学内検討チームでまとめた原案を元に意見等を交えつつ，教職大学院への視察等を通してとりまとめを行うこととした。

2. 兵庫教育大学のカリキュラムについて

『兵庫教育大学・教職大学院の案内』に基づき，現行の兵庫教育大学教職大学院の学校経営コースのコース説明がなされた。

学校経営に特化した教員の場合，共通基礎科目を減らし，専門科目に移行できるのではないかということが，最大の論点になることが示唆された。

3. 経営コースカリキュラムを検討する上での5つの論点とそれに対する意見

①学校経営コースの対象者について

- ・管理職候補者及び管理職を念頭におくといいいのではないか。
- ・民間人校長を狙う人材（グローバル化策の一つ）。
- ・校種のターゲットをどうするのか。
- ・名簿登載者なのか，院生に管理職試験を受けさせるのか。教委との兼ね合いがある。

②学校経営コース修了生の進路について

（学校経営コースの出口としては，①40代半ばで教職大学院を修了し管理職になるケース，②30代で教職大学院を修了し指導主事（教育委員会）になるケースがあるが，どちらを想定するのか。）

- ・「①，②」ともどちらも想定していくのではないか。
- ・目指すべき人材像は，日本教育経営学会作成の校長の専門職基準をモデルにする。

③「②」に伴い，学校管理職候補者でない院生の対応や教委とのコラボレーションについて

・東京都の小中高合わせて2000人の管理職がいるが，大学院に行けるのは20人程度であることから，規模の問題があるのではないか。

教職大学院に行った管理職が，新任の校長に対して学びを伝えることができる仕組みがあれば，地域や市や区等で知識を広めることができる。自校だけが良い教育とならないような工夫が必要である。

④学校経営コースの新しいモデルカリキュラムについて

- ・財務，人事管理・スクールリーダーシップの視点を入れることは大賛成。
- ・教育委員会としても，財務の視点を入れることは良い。
- ・財務として15回の授業が成立するかは疑問である。
- ・財務には，ファイナンス（資産の運用）とアカウンティング（収支・予算規模）がある。業務管理は，残業等があげられるが，それ以外にも，効率よく仕事ができる人とそうでない人といったコスト意識（時間・お金）が必要である。「教育現場におけるコストとは何か」を考えることも大事。
- ・グローバル化ではなく，ダイバーシティ（多様化）で良いのではないか。

⑤その他の意見

- ・現場のアクティビティについては，相互作用の活動を受ける体制づくりが必要となる。また，教員がシステムづくりをするよりも設計する力が必要である。例えば，校務分掌をダイナミックに動かす力である
- ・全ての大学にこのコースを作ることは難しい。大学の教員数，カリキュラムをそろえることの難しさなど。連合などの可能性を提案する等も含めて検討する。

*学校経営の方針と教員へのアドバイス，学校外との人との連携，危機管理の判断のできる教員とすることの必要性。

今日の議論を踏まえて，浅野副座長が原稿を修正する。（カリキュラムの枠組みはこのままで良い）。

以 上

生徒指導コースカリキュラムイメージ検討ワーキンググループ 議事要旨

日 時：平成25年11月23日（土）

場 所：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス 講義室2

出席者：和井田座長、新井副座長、古川委員、西山委員、三村委員、山口委員、池田委員

欠席者：七條委員、大橋委員

陪 席：野中特命助教、長谷川企画課課員

1. ワーキンググループ全体の進め方について

兵庫教育大学の学内検討チームでまとめた原案を元に意見等を交えつつ、教職大学院を持つ大学への視察等を通して2月6日を目途に取りまとめを行うこととした。

2. ワーキンググループ発足の経緯及び兵庫教育大学のカリキュラムについて

当初、生徒指導コースは今回の委託事業の対象外だったが、生徒指導の重要性を訴えた本学の提案により、カリキュラムイメージの開発に取り組むこととなった。

兵庫教育大学の生徒指導コースは総合的なコースで、各自が課題を持ち、全ての領域からのアプローチによる研究成果が求められる。コースの課題として、特定の分野を集中して学びたい学生のニーズや、領域が多いため学びのアイデンティティが明確にならない、ゼミに属さない（現在はゼミ分属がある。）ため不安定ということが挙げられる。

現行カリキュラム…4本の柱（生徒指導、教育相談、キャリア教育、学級経営）と道徳、特別活動・地域連携の計6本の柱を主軸とした包括的なものである

新カリキュラム…生徒指導、教育相談、キャリア教育、学級経営をコアとして必修科目とし、道徳、特別活動、家庭地域連携、特別支援は連動するものとして必修選択科目として考えている。それらを踏まえて、生徒指導実践研究（実習）を設けている。

3. 生徒指導コースカリキュラムを検討する上での4つの論点とそれに対する意見

①教員の力量形成について。

- ・求める人材像を現職とストレートを分けた上で、明確にする必要がある。
- ・実践は行っているが、学問領域がはっきりしないため、研究的な視点が薄い。
- ・大学側の目的（教員の総合力の向上）と学生の目的（分野に特化した学び）の折り合いをどうするか。
- ・学生の研究したいテーマに関連しない科目を学習する必要があるのか。

②科目構成。カリキュラム全体の行程。

- ・コアとなる領域や選択必修について、領域の分け方、領域自体はこれで良いか。
- ・どの大学でも使える汎用的なカリキュラムを作成する必要がある。
- ・カリキュラムの作成には学生のニーズを考慮すべき。
- ・実践がメインとなるので、論文等に時間を割くカリキュラムには疑問を感じる。
- ・学生自身の学びのプランニングを最初の段階で行うべき。
- ・生徒指導を基盤として全体のカリキュラムを構成すべき。

③現職とストレートを同じカリキュラムにするのか。

- ・評価軸は同じ授業科目でも受講生の種類によって変えるべきか。
- ・アカデミックな学生のニーズに対応するため、様々なメニューを用意すべき。
- ・現職優先のカリキュラムを組む方が効果的ではないか。
- ・教員が最終的に備えるべき力量に違いが無いことから、分けるべきではない。
- ・授業科目によっては別立てにするということも考えられる。

④実習と科目群の連動をどのように考えるか。

- ・実習科目の負担が弱点となっている可能性がある。
- ・学ぶ内容と実習を連動させるべき。（実習に必要な学びを事前に受講する）

以 上

共通5領域の充実方策検討ワーキンググループ 議事要旨（案）

日 時：平成25年11月23日（土） 15：30～16：30

場 所：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス 講義室4

出席者：關座長，小野寺委員，出口委員，石野委員，粕谷委員，船田委員

欠席者：西村副座長，懸川委員，新井委員，米田委員，田村委員

陪 席：谷林副課長，寺町特命助教

- ・審議に先立ち，各委員の自己紹介が行われた。

（審議事項）

共通5領域WGにおいては，兵庫教育大学内WG(以下，学内WGとする)で提案された，主に次の2点について議論が交わされた。

（1）「特別支援教育に関する領域」を新たな領域として（6領域目として）位置づけることについての是非について

- 「特別支援教育」を各領域に散在させる形で位置づけた場合，扱う内容が各論的なものとなるため，内容が限定なものとなる可能性や総論的な学びができないのではないか。
- 共通5領域に位置づける際，どの領域にも関連するため，より横断的なカリキュラム内容にする必要がある
- 学内WGの提案による「特別支援教育における教育課程」の項目は，扱う内容が特別支援学級に限られたものになる可能性があり，選択科目に位置づけることも一つの案としてはどうか。

（2）ICTに関する科目の授業内容とカリキュラム上の位置づけに関して

- 学内WG提案の必修科目である「授業におけるICT」と，選択科目である「学校におけるICT活用実践演習」との間に，どのような差異があるのか分かりづらい。
- ICT機器の使用スキルを教職大学院で習得する必要があるのか（議論の最大争点）。
例えば，表計算ソフトなど，ICTの活用方法だけでは内容が限定的であり，しかもICT機器は毎年のように刷新されていくので，活用スキルも毎年刷新されていくことになる。そうした活用スキルに対応することよりも，むしろ，より理念的，概念的な学びが必要ではないか。

（具体的な内容）

- ・ 情報化社会の構造に関すること
- ・ 情報リテラシー(情報モラル)の理念的内容に関すること
- ・ 情報セキュリティに関すること 等

こういった内容は，共通5領域だからこそできる内容であり，全ての学生に概論的，総論的に学ぶ必要性が求められる。

- 「特別支援教育」，「ICT教育」ともに，既存の共通5領域に項目や科目として位置づけると，内容が限定的なものになるため，新たに「現代的(もしくは今日的)な教育課題に関する領域」を設け，どちらもこの領域に位置づける案が出された。
- 「現代的な教育課題」が指し示す範囲は幅広く，各大学の特色や実態に合わせた内容を取り入れることができる上に，めまぐるしく変化する様々な教育課題に対応させることも可能であり，合同会議でも提案された「長期的な視野に立った柔軟なカリキュラムづくり」に対しても合致するという意見であった。
- もし領域を新設できない場合，「その他の領域」に含めてはどうかという意見も出された。

以 上

【共通5領域充実方策WG】